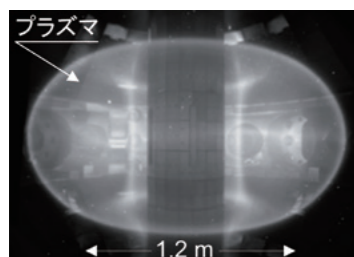
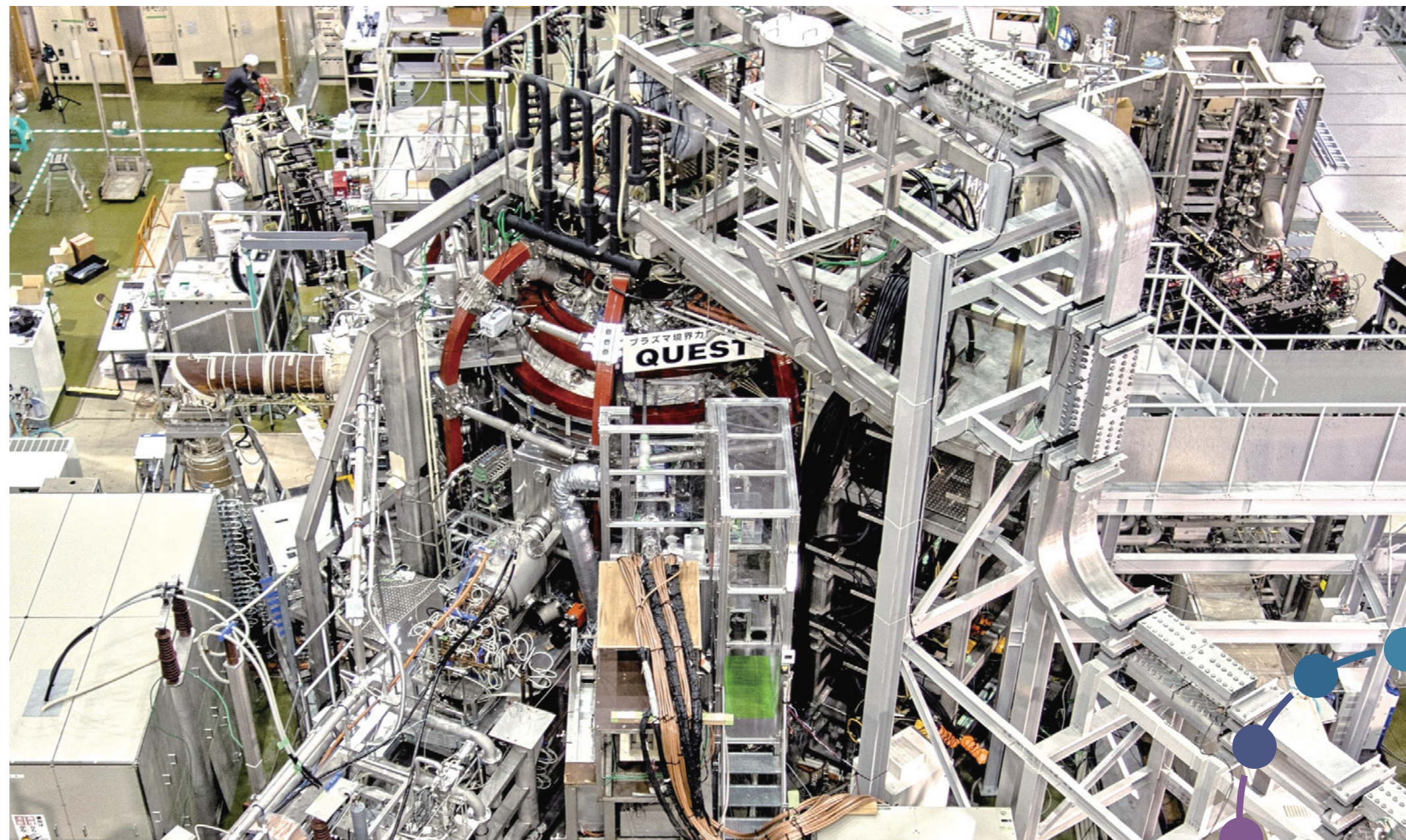


Interdisciplinary Graduate School of Engineering Sciences  
Faculty of Engineering Sciences  
Research Institute for Applied Mechanics  
Institute for Materials Chemistry and Engineering  
Center of Advanced Instrumental Analysis  
Center for Semiconductor and Device Ecosystem  
Transdisciplinary Research and Education Center for Green Technologies  
Research Center for Plasma Turbulence  
Research and Education Center for Offshore Wind  
Research Center for Synchrotron Light Applications  
Pan-Omics Data Driven Innovation Research Center  
KU-KOSEN Networking and Development Center for Higher Education



球状トカマクQUESTで生成された  
数100万℃のプラズマ  
ダイバータ配位と呼ばれる核融合炉に必  
須の形状をもつプラズマを生成した時の  
プラズマの画像。このような高温プラズ  
マの効率的な生成方法、閉じ込め・制御  
方法を開発するとともに、プラズマの性  
質を調べる研究を行っています。



# CHIKUSHI CAMPUS OVERVIEW 2025

## 九州大学 筑紫キャンパス

〒816-8580 福岡県春日市春日公園6-1 九州大学筑紫地区事務部総務課総務係  
TEL092-583-7502

大学院総合理工学府  
大学院総合理工学研究院  
応用力学研究所  
先端物質化学研究所  
中央分析センター  
半導体・デバイスエコシステム研究教育センター

グリーンテクノロジー研究教育センター  
極限プラズマ研究連携センター  
洋上風力研究教育センター  
シンクロトロン光利用研究センター  
情報基盤研究開発センター附属 汎オミクス計測・計算科学センター  
工学部附属高専連携教育推進センター



九州大学  
KYUSHU UNIVERSITY

# INDEX

Introduction of CHIKUSHI CAMPUS OVERVIEW

- 1 はじめに
- 1 沿革
- 3-4 大学院
  - 3 総合理工学府
  - 4 総合理工学研究院
- 5-6 附置研究所
  - 5 応用力学研究所
  - 6 先導物質化学研究所
- 7-11 学内共同教育研究センター
  - 7 中央分析センター
  - 8 半導体・デバイスエコシステム研究教育センター
  - 9 グリーンテクノロジー研究教育センター
  - 9 極限プラズマ研究連携センター
  - 10 洋上風力研究教育センター
  - 10 シンクロトロン光利用研究センター
  - 11 情報基盤研究開発センター附属汎オミクス計測・計算科学センター
  - 11 工学部附属高専連携教育推進センター
- 12 トピック
  - 12 トピックス
- 13-14 その他の構内施設
  - 13 附属図書館筑紫図書館
  - 13 キャンパスライフ・健康支援センター筑紫分室
  - 13 福利厚生施設
  - 14 筑紫国際交流会館
  - 14 レンタルスペース
- 15-17 資料編
  - 15 国際交流
  - 16 学生数
  - 16 学位授与者数
  - 17 進路状況
  - 17 教職員数
- 18 キャンパスマップ

## はじめに

九州大学筑紫キャンパスはJR博多駅から車で15分程の場所にあります。周辺は戦後30年間米軍用地として接収されていましたが、接収解除に伴い昭和51(1976)年6月に国有財産北九州地方審議会において住居地を含む文教および健康・憩いの場として総合的な再開発をすすめる転用計画が策定され、昭和52(1977)年6月に本学用地として約19万㎡の転用が決定されました。さらにその後、隣接地の一部が本学に転用されるなどして、現在では約25.7万㎡のキャンパスとなっています。

この転用計画の趣旨を踏まえ、周辺地域環境との調和を保ちながら高度の教育・研究を行い、かつ地域社会にも貢献する開かれた大学として新キャンパスをスタートしました。現在、大学院総合理工学府・研究院を中心として先導物質化学研究所・応用力学研究所の二つの附置研究所や複数の学内共同教育研究センター/附置施設、工学部融合基礎工学科などから構成され、多様な分野、国籍の大学生・大学院生が環学的に学ぶMelting Potになっています。

大学の使命は知の継承と発展にあり、さらにその成果により人類全体の発展に貢献することにあります。現代は、環境・エネルギー問題に限らず、研究課題が1つの旧来的な学問分野だけから解決されることはなく、多種・多様な知識が求められています。そのためには高度な専門力だけではなく、多様な基礎学力や幅広い知識が必要となります。

また、複雑でグローバルな今日的課題を解決するためには、世界中の同じ分野はもちろんですが異分野の研究者・技術者とも議論できるコミュニケーション能力も必要となります。筑紫キャンパスでは、そのような能力を備えた現代的なスペシャリストを養成するための総合的大学院教育・研究を実践しています。

未来を見据えた物質・エネルギー・  
環境を融合した学問体系の構築と  
それを身につけた人材の育成を目指して――

**工学部附属高専連携教育推進センター**

情報基盤研究開発センター附属汎オミクス計測・計算科学センター

シンクロトロン光利用研究センター

洋上風力研究教育センター



**総合理工学研究院**

応用力学研究所

先導物質化学研究所

中央分析センター

半導体・デバイスエコシステム研究教育センター

グリーンテクノロジー研究教育センター

極限プラズマ研究連携センター



九州大学大学院  
総合理工学府長  
**伊藤 一秀**

## 沿革 History of Chikushi Campus

### 1977

- 6月・筑紫キャンパス設置
- 1981 12月・生産科学研究所※1 移転
- 1982 4月・中央分析センター設置
- 8月・健康科学センター※3 移転
- 8月・総合理工学研究科※2、健康科学センター※3 移転
- 1983 8月・応用力学研究所※4 移転
- 5月・機能物質科学研究所設置(生産科学研究所廃止)
- 1987 3月・電離気体実験施設設置
- 1990 6月・先端科学技術共同研究センター設置
- 1994 4月・総合理工学研究院設置(総合理工学研究科廃止)

### 2000

- 2003 4月・先導物質化学研究所設置(機能物質科学研究所および有機化学基礎研究センター※5 廃止)
- 10月・産学連携センター設置(先端科学技術共同研究センターおよび地域共同研究センター九州芸術工科大学 廃止)
- 2008 4月・炭素資源国際教育研究センター設置
- 2009 7月・シンクロトロン光利用研究センター設置
- 10月・伊藤プラズマ乱流研究センター設置
- 2011 4月・伊藤極限プラズマ研究連携センター設置(伊藤プラズマ乱流研究センター 廃止)
- 2012 12月・グリーンアジア国際リーダー教育センター設置

- 2013 4月・センター筑紫地区分室設置(健康科学センター 廃止)
- 2014 4月・エネルギー基盤技術国際教育研究センター設置
- 3月・電離気体実験施設 廃止
- 4月・極限プラズマ研究連携センター設置(伊藤極限プラズマ研究連携センター 廃止)
- 2016 4月・大気環境総合研究センター設置(産学連携センター 廃止)
- 10月・グローバルイノベーションセンター設置
- 2018 3月・大気環境統合研究センター 廃止
- 4月・グリーンテクノロジー研究教育センター設置(炭素資源国際教育研究センターおよびエネルギー基盤技術国際教育研究センター 廃止)
- 2019 10月・大気物理統合解析センター設置
- 4月・グリーンアジア国際リーダー教育センター 廃止
- 4月・グリーンテクノロジー研究教育センターへ統合

- 2022 10月・埋蔵文化財調査室設置(令和3年3月31日 廃止)
- 3月・大気物理統合解析センター 廃止
- 2024 4月・洋上風力研究教育センター設置
- 1月・九州大学工学部附属高専連携教育推進センター設置
- 3月・グローバルイノベーションセンター 廃止
- 6月・半導体・デバイスエコシステム研究教育センター設置

※1：1949年5月設置それに伴い木材研究所(1944年5月設置)廃止  
 ※2：1979年4月設置 ※3：1978年4月設置  
 ※4：1951年4月設置それに伴い流体工学研究所(1942年1月設置)および弾性工学研究所(1943年1月設置)廃止  
 ※5：1993年4月設置

# 大学院 総合理工学府

Interdisciplinary Graduate School of Engineering Sciences

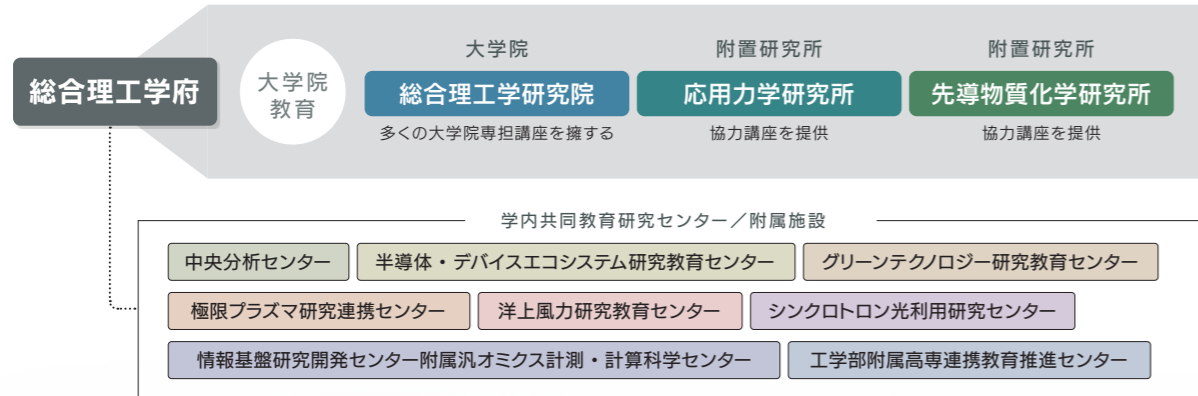
国際的・学際的な教育・研究体制でグローバルに活躍できる研究者たちを育成。

大学院総合理工学府は学部を持たない独立大学院として1979年に設立され、学際的な大学院教育に専念してきた実績と伝統を持つ国内でも数少ない大学院機関です。2021年(令和3年)4月より、従来の5専攻から1専攻6メジャー制へと発展的改組を実施し、国際性と学際性を強化した教育・研究体制を構築しています。「物質、エネルギー、環境およびその融合分野における環境共生型科学技術に関する高度の専門知識と課題探究・解決能力を持ち、持続発展社会の構築のためにグローバルに活躍できる技術者や研究者」を育成する人材像に掲げて真摯に大学院教育と研究に取り組んでいます。



ホームページ

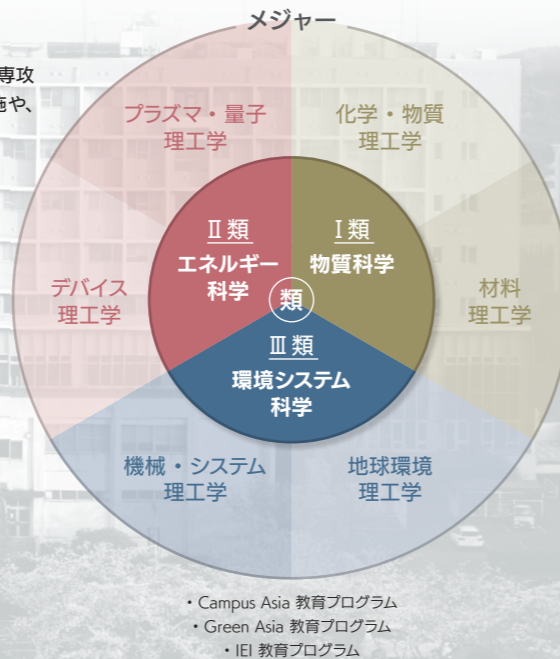
## ■ 総合理工学府の構成



## ■ 1専攻6メジャー制 ～先端領域で活躍する人材を育成～

社会的需要や学生のニーズの変化に対応できる組織づくり。従来型専攻教育における専攻間の垣根を取り払い、分野横断的な教育プログラムの実施や、社会の変革に応じた柔軟な教育体制の構築を容易にする組織に改組しました。

類	総合理工学府が掲げる「物質・エネルギー・環境」に基づく教育過程編成上の区分
材料工学	環境共生型の開発が関与する種々の領域で活躍できる人材の育成
化学・物質工学	先端科学研究や環境共生型の先端技術開発に携わり活躍できる人材の育成
デバイス工学	環境共生型の高性能デバイス開発の先端領域で活躍できる人材の育成
プラズマ・量子工学	高エネルギー基礎・応用分野の先端領域で活躍できる人材の育成
機械・システム工学	総合的で広い視野をもち、次世代を担う創造的な人材の育成
地球環境工学	地球環境問題解決のためにグローバルに活躍できる人材の育成



## 総合理工学府 総合理工学研究院

Faculty of Engineering Sciences

総合理工学府の責任部局として、地球環境と調和のとれた次世代科学技術の確立を目指した先駆的研究を行い、その活動と成果を大学院教育に還元



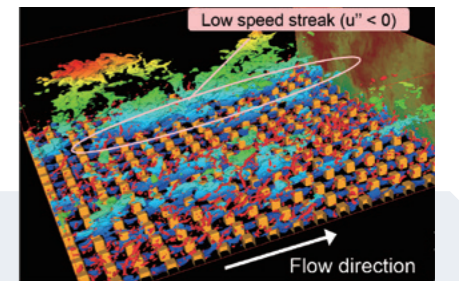
ホームページ

理工学とは、自然現象の学理を追及する理学と、人類社会への応用を図る工学とを結びつける重要な学際融合領域です。

総合理工学研究院は、大学院教育を担当する総合理工学府の責任部局として、その教育理念を支える理工学研究を積極的に推進します。すなわち、物質・エネルギー・環境を3本柱として、理工学の視点からそれぞれの分野ならびに三者の融合した分野における新しい先駆的・先端的研究を推進して国際的に卓越した教育研究拠点の確立を志向するとともに、地球環境との調和のとれた次世代の科学技術に挑戦し、長期的視野に立った未来志向型・創造型の戦略研究を展開し、その研究活動を通して人材育成を行います。



小惑星リュウグウ試料解析装置群



都市大気的环境変動

## PICK UP 総合理工学研究院が分かる

最新情報や入試情報、詳細な情報はWebサイトをご覧ください。また、総合理工学府・総合理工学研究院をはじめとした筑紫キャンパスの様子が分かる紹介動画もあります。



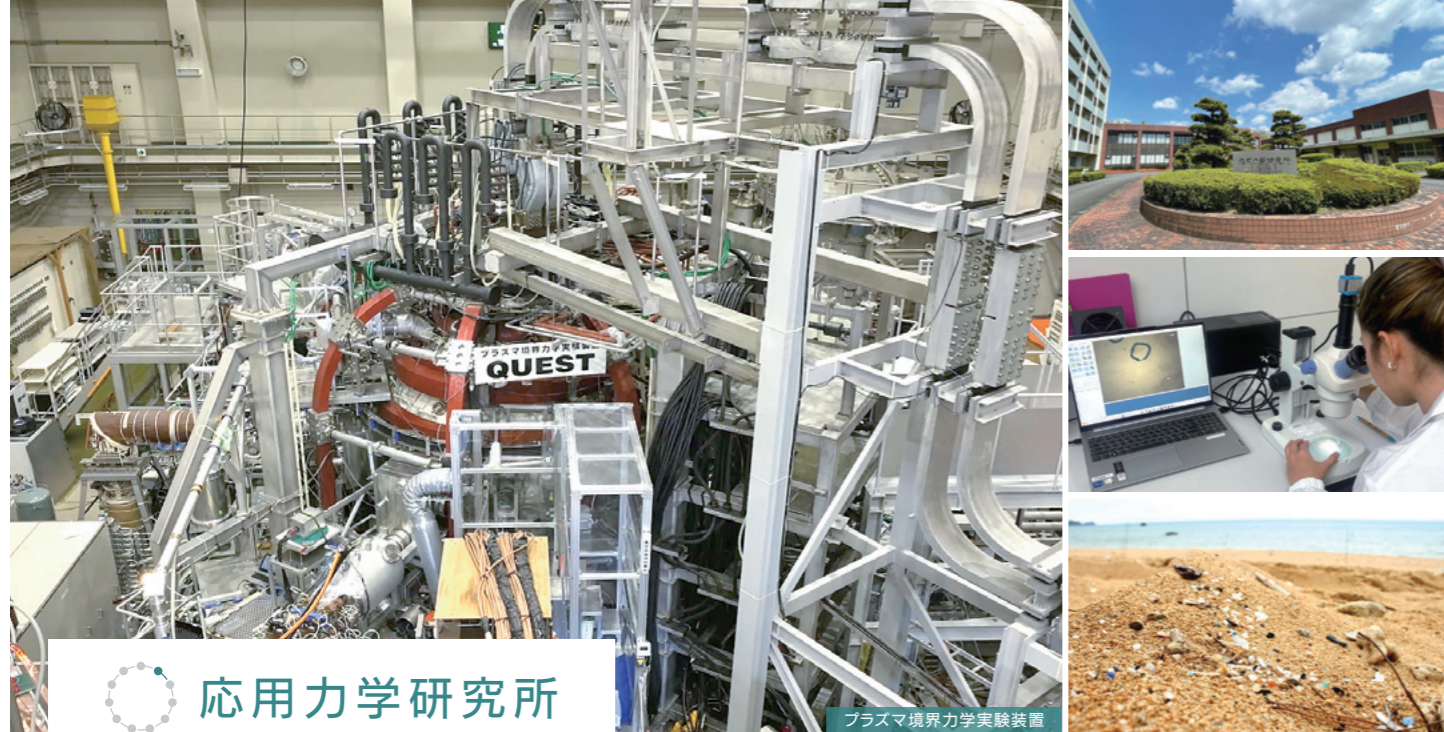
筑紫キャンパス

## VOICE

総合理工学府では、先端理工学研究に裏付けられた高度な大学院教育に取り組む中で、国際化大学院教育、高専と産業界連携を融合させた高度技術者教育に注力しています。特に、「物質・環境・エネルギー」を大きな柱とした裾野の広い学際的な教育・研究テーマを掲げて、大学院教育に取り組んでいます。総合理工学府は広く国内外から学生を受け入れておりますが、特に博士課程の留学生比率は6割を超えており、国際性を増しています。この国際的で学際的な雰囲気のもとで研究教育を強力に推進し、次世代のスペシャリストを育成し、そして国際社会へ送り出す、これが、総合理工学府の大切なミッションです。



総合理工学府 院長 伊藤 一秀 教授



## 応用力学研究所

プラズマ境界力学実験装置

Research Institute for Applied Mechanics



## 先導物質化学研究所

Institute for Materials Chemistry and Engineering

地球環境とエネルギー問題の解決に貢献！  
多分野にまたがる世界的にもユニークな研究所

応用力学研究所は、1942年設立の流体工学研究所と1943年設立の弾性工学研究所を母体として、1951年に設立された由緒ある附置研究所です。

当初は「流体及び弾性体に関する学理とその応用」を設置目的としていました。1997年に、これを「力学に関する学理およびその応用の研究」に更新しました。この設置目的に則って、近年では、人類社会において重要な地球環境問題とエネルギー問題に係る課題解決に取り組む、持続可能でより良い世界の実現を目指しています。この目標達成に向けて、学術的な基盤を発展させる地球環境力学部門、核融合力学部門、新エネルギー力学部門の3つの部門と、社会の要請に応える実証研究を目指す、大気海洋環境研究センター、海洋プラスチック研究センター（国際研究拠点）、高温プラズマ理工学研究センター、再生可能流体エネルギー研究センターの4つのセンターが連携して、国際的に高い水準の研究を推進しています。

また、各部門・センター内の各々の研究分野は、総合理工学府の協力講座を担当しており、将来の優秀な研究者の育成にも貢献しています。

### PICK UP 共同利用・共同研究拠点

2009年に、文部科学省から共同利用・共同研究拠点「応用力学共同研究拠点」として認定されました。「特定研究」「国際特定研究」「一般研究」「研究集会」「国際化推進研究」「若手キャリアアップ支援研究」などの枠組みで、研究課題を公募しています。

国内外の研究者とともに、研究の質を高め、国際的な共同研究拠点としての機能を果たせるよう発展し、社会の要請に応えるために学内での連携も強化し、社会への還元を促進します。

### 応用力学研究所関連組織

応用力学研究所

地球環境力学部門

核融合力学部門

新エネルギー力学部門

大気海洋環境研究センター

海洋プラスチック研究センター

国際研究拠点

高温プラズマ理工学研究センター

再生可能流体エネルギー研究センター

### VOICE

現代社会が抱える諸問題は複雑に絡み合っており、種々の学術分野の研究者が連携協力して、それらの課題解決に取り組む必要性が高まっています。2023年12月に「分野融合室」を設置し、大気・海洋、核融合・プラズマ、新エネルギーの多岐にわたる学術分野における異分野融合研究を推進しています。



応用力学研究所長 寒川 義裕 教授

物質化学分野の国際的中核研究拠点の形成を目指し、基礎研究、実用基盤研究で社会に貢献

先導物質化学研究所は、ナノテクノロジー、環境、情報およびバイオ・ライフサイエンス関連の科学技術の展開に必要な、高度な機能を持つ物質・材料の創製、応用と製造プロセスに関わる総合研究を進めるため、機能物質科学研究所と有機化学基礎研究センターが再編・改組されて2003年に設立されました。筑紫地区・伊都地区に研究所が設置されており、筑紫地区では総合理工学府、伊都地区では工学府および理学府と協力して教育研究を行っています。

先導物質化学研究所では、おもに新しい機能性分子の設計・合成、原子・分子集積化、機能性有機・無機・融合ナノ構造材料の創成と構造・物性解析、デバイス化、ナノ材料製造プロセスにかかわる先端分野の研究を進めており、物質化学に関する基礎学術の中核的研究拠点として、優れた研究成果を輩出するとともに社会実装に発展させる応用研究にも力を入れ、国内外の産業界とも連携しながら研究力の強化を図っています。

### PICK UP 国内外の研究コミュニティに貢献

先導物質化学研究所は、原子・分子・ナノスケールからマクロスケールにわたる物質の構造、物性・機能の階層的なしくみに対応する4研究部門（物質基盤化学、分子集積化学、融合材料、先端素子材料）と国際的研究戦略を狙ったソフトウェア国際部門の計5部門から構成されており、約60名の教員（教授、准教授、助教）と研究員、研究支援スタッフが研究活動に従事しています。

2011～2020年の10年間に約2,000報の査読付原著論文および総説を発表し、それらの論文・総説は約34,000回の被引用を通じて国内外の関連する研究分野のコミュニティに貢献しています。

### 筑紫地区研究室の研究分野

新しい機能性分子の設計・合成

原子・分子集積化

機能性有機・無機・融合ナノ構造材料の創成と構造・物性解析

デバイス化

ナノ材料製造プロセス



先導物質化学研究所外観

### VOICE

先導物質化学研究所では、最先端で活躍する先生たちの指導の下で他では味わうことのできない研究体験ができます。

国内外での学会発表や論文発表への貢献は、実験で得られる経験だけでなく今後の社会活動でも必ず役に立つでしょう。研究分野は様々な領域にまたがっています。皆さんの興味を満たす研究室が必ず見つかるはずです。



先導物質化学研究所長 横山 士吉 教授



ホームページ



ホームページ



中央分析センター

Center of Advanced Instrumental Analysis



半導体・デバイスエコシステム  
研究教育センター

Center for Semiconductor and Device Ecosystem

分析装置や試料作製装置などを集中設置  
共同利用で学際領域の研究もサポート

中央分析センターは、自然科学系分野の研究教育上必要な試料あるいは物質の分析、および特殊研究試料作製を行うための全学共同利用施設です。科学技術の発展にともない、分析や構造解析に用いる各種機器分析装置、特に高機能な大型装置が欠かせなくなってきました。総合的な分析・解析のために高機能機器の集中配置は重要であり、教育・研究推進にも非常に有効です。2025年4月現在、センターは筑紫地区と伊都地区に設置されており、センター所管装置として表面分析装置群、形態観察装置群、元素分析装置群、構造解析装置群に分けられる種々の50台の装置が、各部局からの登録装置として94台が学内外で共同利用されています。

本センターでは、依頼分析、機器の分析法・解析法などの指導・教育、基礎分析セミナー・ワークショップ・講習会の開催、各部局登録(分析)機器の利用サービス、学内外からの分析技術相談、センターニュース(年2回)・センター報告(年1回)の発行などを行っています。ホームページ(左QR)では、各種分析装置の概要、利用方法、データベース・出版物などの閲覧、必要な情報のダウンロード、装置利用予約を行うことができます。



電界放出形走査電子顕微鏡



透過型電子顕微鏡



X線回折装置

X線光電子分光分析装置

【中央分析センターの分析機器群】

デジタル化と脱炭素化の両立を目指した  
次世代半導体創成拠点の構築

脱炭素エネルギー社会に向けた非連続のイノベーションを実現する技術革新と社会像を提案していくためには、再生可能エネルギーの創出・転換・貯蔵研究に加えて、それらを社会実装するために必須となる半導体・デバイスの研究を併せて推進していくことが極めて重要です。また、昨今のデジタル化・グリーン化の進展により半導体がセキュリティ・カーボンニュートラルのキーパーツになっており、半導体関連の研究の必要性は高まるばかりです。このような社会のニーズ及び本学の研究戦略に応えるため、全学的な体制で「半導体・デバイスエコシステム研究教育センター」が2024年6月1日に発足しました。本センターにおいては、大学が保有する半導体技術・ノウハウ、クリーンルーム及び半導体プロセス装置群に基づき、半導体研究開発に係るオープンなイノベーションプラットフォームの整備を行う予定です。また、価値創造型半導体人材育成センターと連携し、半導体に係るハード・ソフト研究・教育の協働を進めていきます。さらに、本センターの活動を進める中で、2035～2040年頃の社会で求められる半導体の創成を目指したエマージングデバイスの中核的研究拠点の形成を図っていく予定です。

PICK UP 実験設備の共同利用体制の整備

本センターのクリーンルーム及び半導体プロセス装置群を学内外で共同利用する体制を整備しました。今まで学内での共同利用は行ってきましたが、学外からの共同利用には、学内教員の仲介が必要でした。今後は学内教員の仲介なしに、学外から直接、実験設備の利用が可能となるよう、利用規程などを改訂しました。詳細は本センターのホームページなどでご案内しますので、積極的なご利用をお願い致します。



オープンイノベーション棟外観  
(1階にクリーンルームがあります)



第1クリーンルームの設備例(1)



第1クリーンルームの設備例(2)



ホームページ



ホームページ

## グリーンテクノロジー研究教育センター

Transdisciplinary Research and Education Center for Green Technologies

炭素循環社会の実現に向けた  
技術研究と人材を育成

グリーンテクノロジー研究教育センターが取り組んでいる研究の共通キーワードは、「炭素循環社会・産業の基盤となる環境・エネルギー・物質システム」です。

炭素循環社会の実現に向けてエネルギー変換・利用、炭素資源利用ならびにこれらに関連する技術とシステムに関する学際的研究を行い、この活動を通じて当該の技術あるいは研究を担う人材の育成を目的としています。

また、博士課程教育リーディングプログラム「グリーンアジア国際戦略プログラム」の事業期間が平成30年度末に終了したことを受け、同プログラムを運営してきたグリーンアジア国際リーダー教育センターを本センターに統合しました。同プログラムを九大としてさらに推進していく方針の策定や教育・研究成果の国際および地域社会への普及も行っています。



### PICK UP

ノーベル賞を受賞した  
九大名誉教授が  
本キャンパスでも講演

2019年にノーベル化学賞を受賞した吉野彰九大名誉教授は、受賞以前から本センターの客員教授であり、現在も訪問教授として在籍中で、筑紫地区で何度も貴重な講演を行っていただいています。



2019年  
ノーベル化学賞受賞者  
吉野彰九大名誉教授



ホームページ



## 洋上風力研究教育センター

Research and Education Center for Offshore Wind

最高水準の洋上風力研究・  
教育拠点を目指す

九州大学は、指定国立大学法人構想において、九州・福岡地域のグリーンイノベーションハブとなり、革新技術の創出、政策提言、人材育成に貢献することにしており、具体的な取組事項として、洋上風力発電をはじめとする風力エネルギー技術の革新を挙げています。

このような風力エネルギー技術の革新の具現化、発電事業者、国・自治体及び国内外メーカーとの協力推進のために、当該分野で我が国トップレベルの応用力学研究所を中心とし、総長のリーダーシップの下で全学的な体制で洋上風力研究を展開・実施していくための「洋上風力研究教育センター」を2022年4月に設置しました。

センター設置により、洋上風力研究・教育に必須となる「風況」「風車」及び「浮体」の研究・教育を統合的に推進できる体制が整い、洋上風力発電に係る基礎研究の蓄積・基盤の形成を図ることができています。また、2024年度からはセンターに新たに「産学官・国際連携推進」と「社会実装推進」部門を設置し、産学官・国際連携を通じて大学発の洋上風力技術の社会実装を推進しています。



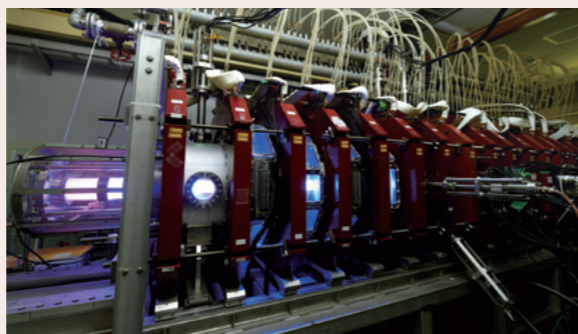
ホームページ

## 極限プラズマ研究連携センター

Research Center for Plasma Turbulence

プラズマ乱流の現象解明へ向けて

極限プラズマ研究連携センターは、伊藤プラズマ乱流研究センター(本学の主幹教授制度に基づく初の研究センター)をその前身として発足し、非平衡・極限プラズマ研究を体系的に推進するとともに、学内外のプラズマ理工学及び関連理工学の先端科学研究と連携して基盤学理を構築することを目的としています。プラズマ乱流実験装置であるPLATO(トラス乱流観測装置)およびPANTA(直線プラズマ乱流実験装置)を利用したユニークな研究を実施し、また、優秀な若手の早期顕彰のためにヨーロッパ物理学会プラズマ分科会において九州大学伊藤賞を授与するなどの国際的な人材育成活動も行なっています。本センターが中心となって推進している「非平衡極限プラズマ全国共同連携ネットワーク研究計画」は、日本学術会議マスタープラン(2010、2014、2017、2020)および文部科学省ロードマップ(2011、2014、2020(カテゴリーII))の優先計画であり、プラズマ理工学の新学術領域として今後さらなる発展が見込まれます。

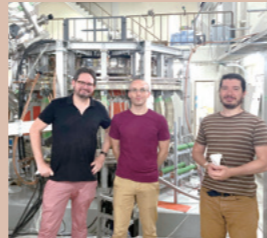


プラズマ乱流実験装置

### PICK UP

PANTA・PLATO

センターには海外の研究者たちが度々来訪し、共同研究を実施していきます。近隣のアジアの国々だけでなく、ヨーロッパからの訪問者も非常に多いです。



ホームページ

## シンクロトロン光利用研究センター

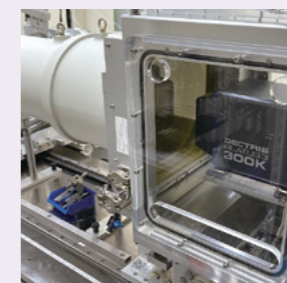
Research Center for Synchrotron Light Applications

シンクロトロン光分析と  
マテリアル研究の融合

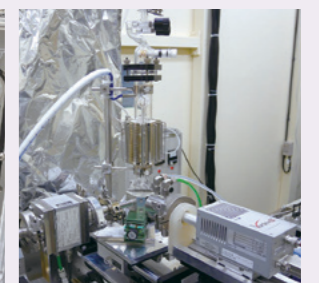
シンクロトロン光利用研究センターは、共同利用設備である九州大学硬X線ビームライン(九大BL、SAGA-LS/BLO6に設置)を所管する学内共同教育研究センターです。九大BLは、高輝度かつエネルギー(波長)を連続的に変えられるシンクロトロン光を光源とし、実験室の光源では困難である計測を実現しています。九大BLが備えるX線吸収微細構造(XAFS)では価数や局所構造(原子間距離等)、小角X線散乱(SAXS)では数十nmのメソ構造が解析できます。SAXSは、カメラパスと検出器を一体の真空下とすることで微弱な散乱でも高感度に計測でき、九大BLの特徴の一つとなっています。また、独自に開発した試料環境制御により、高温(700℃程度)かつ反応ガス雰囲気下での軽元素(リン・硫黄等)の計測や、試料の湿度環境を制御した計測ができます。新たな研究の立ち上げやin-situ/operando計測の開発に適したビームラインです。



九州大学BL外観



SAXS検出器



軽元素in-situ XAFSシステム



ホームページ

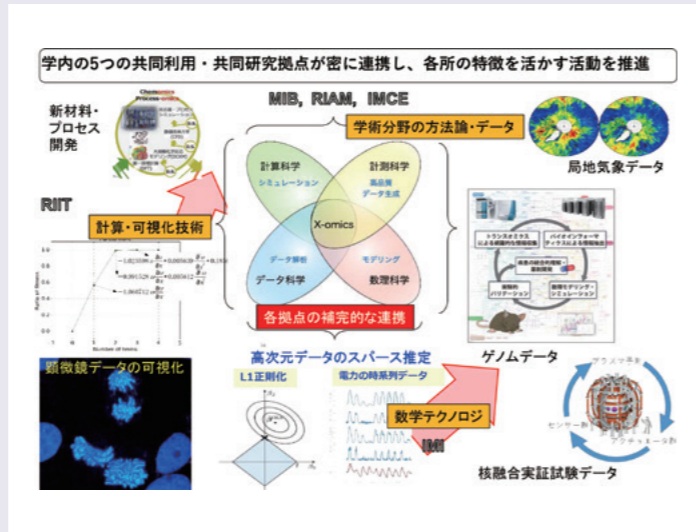
## 情報基盤研究開発センター附属 汎オミクス計測・計算科学センター

Pan-Omics Data Driven Innovation Research Center

数理とデータ科学を核として  
学術分野の新しい研究パラダイムを拓く

汎オミクス計測・計算科学センターは、生体防御医学研究所、応用力学研究所、先導物質化学研究所、マス・フォア・インダストリ研究所、情報基盤研究開発センターという学内5部局の共同研究拠点により、「計測科学」・「データ科学」・「計算科学」・「数理科学」の4つの科学的アプローチを統合して、新しい学術領域、すなわち、質の高いデータと優れた数学的理論・方法論、および最先端のデータ解析・計算法を駆使したTrans Disciplinary Science(汎オミクス)を開拓することを目的として、2019年に設置されました。

この5部局が協働することで、大きな相乗効果に基づく全学術領域への波及効果をもたらすことが期待されます。これまで毎年20件以上の共同研究や若手研究者を支援する公募事業などを実施、また競争的資金の獲得などを行い、学内外の研究推進に貢献しています。



汎オミクス計測・計算科学センターの活動イメージ

## 工学部附属 高専連携教育推進センター

KU-KOSEN Networking and Development Center for Higher Education



九州・沖縄地区の9高等専門学校との  
連携教育拠点を目指す



高専連携教育推進センターは、大学院総合理工学府の工学部兼任教員が担当する工学部融合基礎工学科(令和3年度新設)に設置されました『九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラム』(令和5年度開始)を運営する中核組織としての役割を担っています。

本プログラムは、九州・沖縄地区の9つの高等専門学校と連携し、高専専攻科からの3年次編入学生を受け入れ、本学の最先端研究力と高専が有する技

術教育基盤を融合させた新しい連携教育により、地球規模の複雑で多様な課題や各地域が直面している社会的な諸問題の解決を主導する創造力豊かな高度実践的技術者・研究者の育成に貢献します。さらに、本センターが主導する九大・高専教員間ネットワークを活用して、双方の共同研究を積極的に促進し、九大・高専・地元企業間の産学共同研究の創出による地域貢献への波及効果も期待されています。



ホームページ

## TOPICS

### TOPIC 1

## 筑紫地区 オープンキャンパス

年に1度開催しているキャンパス開放(オープンキャンパス)では、子どもから大人まで楽しめる体験型の催しや、最先端の研究を体感できるイベントなど、個性豊かな企画を公開しています。

研究室の企画の他に、大学院総合理工学府へ進学を考えている方を対象とした「大学院総合理工学府入試説明会」を開催したほか、「大学院受験相談コーナー」を設け、筑紫キャンパスの教職員が学生生活・受験等のご質問や相談にお答えしています。



### TOPIC 2

## 大野城心のふるさと館との連携 サイエンスカフェ

九州大学筑紫キャンパスと大野城心のふるさと館は、どなたでも気軽に学んでいただくことを目的として、「サイエンスカフェ」を実施しています。科学の面白さ、生活との結びつきなどについて、中学生・高校生をはじめ、皆さんと考えながら科学への理解を深められる講座です。

令和3年12月17日に第1回目を開催し、令和7年6月13日で第14回目の開催を迎え、「海面の波と流れを通して見た地球環境」と題し総合理工学府 杉原教授が講演しました。回を重ねる毎にリピーターが増え、多くの参加者が集まっています。



### TOPIC 3

## 中等教育への寄与

隣接する県立春日高等学校や、春日市・大野城市内小中学校を中心に、教員や学生等の派遣や、キャンパスへ招いて研究内容や施設を紹介するなど、近隣の教育力の向上にも寄与しています。



### 附属図書館筑紫図書館



専門書を中心に蔵書は10万冊以上！  
学生や教員の研究をサポート

理工学分野の専門書を中心に、10万冊以上の資料を所蔵する学術図書館です。キャンパス唯一の図書館として、筑紫地区に所属する学生・教職員へのサービスを行っています。

館内にはWeb面接等に利用可能な個室や、グループ学習も可能なアクティブラーニングスペース「BiblioCookies」を備え、資料利用のみならず幅広い用途に応えています。



施設詳細

### キャンパスライフ・健康支援センター 筑紫分室



健康、心理支援、障害者支援など  
学生生活を支援

キャンパスライフ・健康支援センターは、九州大学における学生および教職員への健康支援、心理支援、障害者支援などを業務とする施設です。筑紫キャンパスにも筑紫分室があり、保健師が常駐し、医師による内科診察、それに加え予約制でカウンセラーによる学生相談と精神科医による精神保健相談も実施しています。筑紫分室は、先導物質化学研究所1階にあります。



施設詳細



### 筑紫国際交流会館

筑紫キャンパスの国際的な発展へ

2024年3月に竣工した「筑紫国際交流会館」は、留学生に加え、「高専連携教育プログラム」の受入学生（高専の専攻科在籍生）等が入居しており、単身室と4人で共同生活を送るシェアルーム（トイレ・風呂・キッチン）を設けています。

自宅がキャンパス内にあるため、入居者は教育・研究活動に専念することができます。また、多国籍の学生と触れ合うことで、社会性やコミュニケーション能力の強化に繋がり異文化交流が促進され、筑紫キャンパスの国際的な発展に寄与することが期待されます。



施設詳細

### レンタルスペース

総合研究棟(C-CUBE)、  
オープンノベーション棟に設置

レンタルスペースとは、九州大学内の研究室に有料で貸し出す研究スペースです。多くの研究者が産学官連携に資する共同研究及び可能性実証研究等を実施するにあたり、独創的な研究の推進等に利用しています。



総合研究棟  
詳細

〔利用条件〕

- 1.施設の目的に沿った教育研究活動を行うこと
- 2.共同研究等の相手企業等については、事業所所在地、創業年数、業種、企業規模、その他において制限なし



オープンノ  
ベーション棟  
詳細



総合研究棟3階 吹き抜けの空間



オープンノベーション棟 実験室

### 福利厚生施設

食堂や売店のある教職員・学生たちの憩いの場

筑紫キャンパスの教職員、学生たちの憩いの場として1982(昭和57)年9月に完成し、玄関ホールの北側に「レストランぞんね」(食堂)、南側に和室や売店、トレーニングルームがあります。トレーニングルームは平日18時から20時まで九州大学の教職員と学生に無料で開放されています。

施設周辺には九州電力から寄贈された産学の5大要素「木火土金水(もっかどこんすい)」を象徴するレリーフや、佐藤忠良(ちゅうりょう)氏作のブロンズ像、さらに石川幸二氏(九州大学名誉教授(芸術工学研究院))作の彫刻が配され、多様な分野、国籍、年齢層の大学院生、研究者が集い交流する場に潤いと安らぎを与えています。



施設詳細



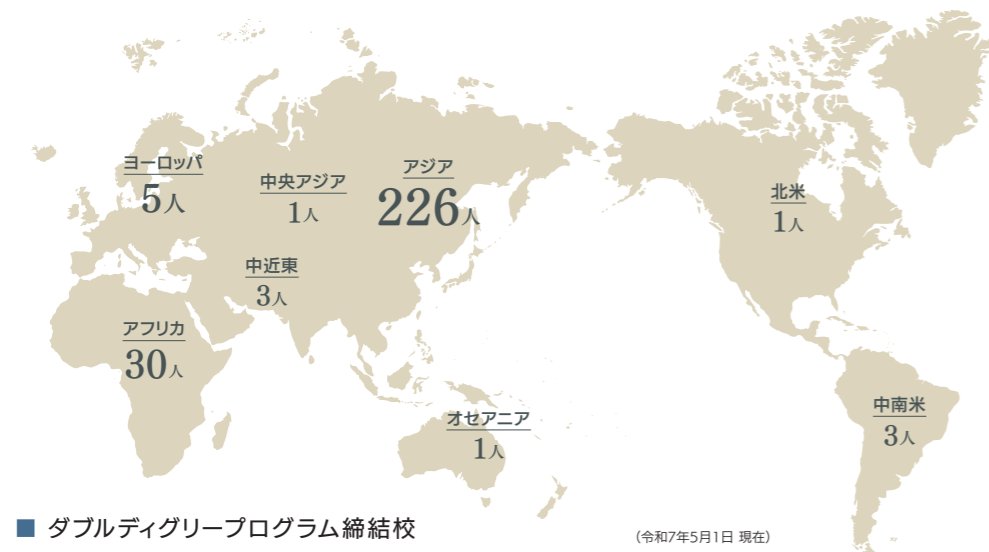
レストラン「ぞんね」



福利厚生施設外観

## 国際交流

### 留学生数(大学院総合理工学府)



(令和7年5月1日現在)

地域	国名	人数
アジア	インド	2
	インドネシア	5
	タイ	2
	パキスタン	4
	バングラデシュ	5
	フィリピン	1
	韓国	10
	台湾	12
	中国	185
	中央アジア	キルギス
中近東	イラン	1
	パレスチナ	2
中南米	グアテマラ	1
	ブラジル	1
	ペルー	1
アフリカ	ウガンダ	1
	エジプト	22
	ギニア	1
	ケニア	3
	ナイジェリア	1
	ブルキナファソ	1
	マダガスカル	1
オセアニア	トンガ	1
北米・ヨーロッパ	イタリア	1
	カナダ	1
	フランス	4
合計		270

### ダブルディグリープログラム締結校

(令和7年5月1日現在)

部局名	締結校名	国名
大学院総合理工学府	釜山大学校工学府(修士・博士)	韓国
	上海交通大学大学院(修士)	中国
	台湾師範大学理学院、科技與工程学院(修士)	台湾
	台湾科技大学工程学院、電機情報学院、応用科学学院(修士)	台湾
	マレーシア工科大学機械工学部(修士)	マレーシア

### ジョイント・ディグリープログラム締結校

(令和7年5月1日現在)

部局名	締結校名	国名
大学院総合理工学府	アントワープ大学	ベルギー

### 部局間交流協定(学術・学生)締結校

(令和7年5月1日現在)

部局名	締結校名	国名	部局名	締結校名	国名
大学院総合理工学府・大学院総合理工学研究院	インド工科大学 グラハティ校(学術交流のみ)	インド	大学院総合理工学府・大学院総合理工学研究院	イーター機構(学術交流のみ)	フランス
	インド工科大学 デリー校	インドネシア		国立応用科学院 リヨン校	
	ハサヌティン大学 工学部			クレルモン・オーヴェルニュ国立理工科大学	
	セバスマレット大学 工学部(学術交流のみ)			パリ国立高等化学学校(学生交流のみ)	
	ムハマディア大学 ジョグジャカルタ校 工学部			パリ国立高等鉱業学校	
	プラウィジャヤ大学 工学部			レンヌ大学 ENSSAT	
	延世大学校工科大学	韓国	ルブリン工科大学(学術交流のみ)	ポーランド	
	釜山大学校(CA Plus※)	タイ	締結数: 36(14カ国・地域)		
	チェンマイ大学 理学部		インドプラズマ研究所	インド	
	国立中山大学 工学院	台湾	韓国海洋研究院	韓国	
	逢甲大学 理工学部		東南アジア漁業開発センター(SEAFDEC)	タイ	
	西安建築科技大学(旧 西安冶金建築学院)		台湾海洋科技研究センター	台湾	
	四川大学 建築・環境学院(学生交流のみ)		国立成功大学沿岸海洋モニタリングセンター		
	武漢理工大学	中国	原子力工業省西南物理研究所	中国	
	成都大学		中国科学院プラズマ物理研究所		
	上海交通大学(CA Plus※)		中国科学院大気物理研究所		
	マレーシア工科大学(学術交流、学生交流、CA Plus※)		ドイツ		ドイツ
	マラ工科大学	マレーシア	グライフスヴァルト大学	ドイツ	
	エジプト日本科学技術大学		イーター機構	フランス	
	マンスーラ大学 工学部	エジプト	ポーランド科学アカデミー-高圧物理学研究所	ポーランド	
リンデン大学 理工学部	プリンストン大学 プリンストンプラズマ物理研究所		アメリカ		
スウェーデン	スウェーデン	締結数: 12(9カ国・地域)			
オストラバ工科大学		先導物質化学研究所	韓国		
チェコ共和国	チェコ共和国	漢陽大学 有機ナノ工学部(学術交流のみ)	韓国		
		チェンマイ大学理学部(学術交流のみ)	タイ		
ドイツ	ドイツ	締結数: 2(2カ国・地域)			
		洋上風力研究教育センター	イギリス		
ノルウェー	ノルウェー	締結数: 1(1カ国・地域)			
		ストラスクライド大学(学術交流のみ)	イギリス		

※大学の世界展開力強化事業(CAMPUS Asia Plus)による4大学間コンソーシアムにおける学生交流協定

## 学生

### 学生数 大学院総合理工学府(令和3年4月1日/5専攻から1専攻へ改組)

(令和7年5月1日現在)

区分	定員(1学年当り)		在籍学生数					合計
	修士課程	博士後期課程	修士課程		博士後期課程			
			1年	2年	1年	2年	3年	
旧専攻名	量子プロセス理工学	2	-	-	-	-	2	2
	物質理工学	1	-	-	-	-	1	1
	先端エネルギー理工学	1	-	-	-	-	1	1
	環境エネルギー工学	2	-	-	-	-	2	2
	大気海洋環境システム学	4	-	-	-	-	4	4
総合理工学専攻			205	213	78	60	82	638
九州大学・アントワープ大学総合理工学国際連携専攻					1			1
合計	0	10	205	213	79	60	92	649

### 学位授与者数 年度別学位授与状況

#### 修士課程

(令和7年4月1日現在)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
修士(理学)	29	18	33	19	26	29	33	187
修士(工学)	198	200	194	200	199	180	188	1,359
修士(学術)	5	3		3	1	1	1	14

※年度別学位授与者数については、過去に設置されていた専攻の授与数を含む

#### 博士後期課程

(令和7年4月1日現在)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
修士(理学)	3	2	7	4	5	10	4	35
	30	27	34	32	31	31	31	216
	8	7	9	13	12	7	15	71
修士(工学)				1				1
	1			1	1		1	4
								0
修士(学術)	3	2	7	5	5	10	4	36
	31	27	34	33	32	31	32	220
	8	7	9	13	12	7	15	71

※年度別学位授与者数については、過去に設置されていた専攻の授与数を含む

### 専攻別学位授与状況

(令和7年4月1日現在)

区分	修士課程	博士後期課程					
		令和5年度	令和6年度	課程博士(甲)		論文博士(乙)	
				令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度
旧専攻名	量子プロセス理工学	修士(理学)			博士(理学)		
		修士(工学)	1		博士(工学)	2	2
		修士(学術)			博士(学術)	1	1
旧専攻名	物質理工学	修士(理学)			博士(理学)	4	
		修士(工学)	1		博士(工学)	5	2
		修士(学術)			博士(学術)		
旧専攻名	先端エネルギー理工学	修士(理学)			博士(理学)		
		修士(工学)			博士(工学)	4	
		修士(学術)			博士(学術)	1	
旧専攻名	環境エネルギー工学	修士(理学)			博士(理学)		
		修士(工学)			博士(工学)	7	1
		修士(学術)			博士(学術)	2	
旧専攻名	大気海洋環境システム学	修士(理学)			博士(理学)		
		修士(工学)			博士(工学)		2
		修士(学術)			博士(学術)	2	
新専攻	総合理工学	修士(理学)			博士(理学)	6	4
		修士(工学)			博士(工学)	13	24
		修士(学術)			博士(学術)	1	14
合計	修士(理学)	0	0	博士(理学)	10	4	0
	修士(工学)	2	0	博士(工学)	31	31	0
	修士(学術)	0	0	博士(学術)	7	15	0

学生

進路状況

令和6年度 大学院総合理工学府(修士課程)修了者 産業別就職状況

(令和7年4月1日 現在)

項目	① 修了者数						② 大学院(博士後期課程)進学者数						③ 就職希望者数						④ 就職決定者数						⑤ 進学・就職以外の者						⑥ 就職率(%)						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
物質理工学専攻	1					100.0																															
化学・物質理工学メジャー	40	5	35	34	1	97.1																															
デバイス理工学メジャー	27	4	21	19	4	90.5																															
材料理工学メジャー	55	8	47	47		100.0																															
プラズマ・量子理工学メジャー	32	7	24	23	2	95.8																															
機械・システム理工学メジャー	41	7	33	28	6	85																															
地球環境理工学メジャー	26	3	23	22	1	96																															
合計	222	34	184	174	14	94.6	0	0	0	4	0	2	0	17	9	20	26	10	6	15	2	12	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	3	2	0	0	

※( )は女子内数

教職員数

(令和7年5月1日 現在)

部局名	教 員						事務職員等				合 計
	教 授	准教授	講 師	助 教	准助教	計	事務	技術	教務	計	
大学院総合理工学府・学府	39	24		14		77		3		3	80
応用力学研究所	17	20		15		52		17		17	69
先導物質化学研究所	15	21	1	17		54		5		5	59
中央分析センター		1		1		2			1	1	3
グリーンテクノロジー研究教育センター						0				0	0
シンクロトロン光利用研究センター	1					1				0	1
洋上風力研究教育センター	3					3				0	3
事務部(附属図書館建築図書館/施設部施設管理課建築保全係を含む)						0	45	2		47	47
合計	75	66	1	47	0	189	45	27	1	73	262

※非常勤は含まない

キャンパス

構内

1 建築地区共用棟  
2 先導物質化学研究所 中央棟  
キャンパスライフ・健康支援センター建築分室  
3 先導物質化学研究所 北棟  
4 先導物質化学研究所 南棟  
5 総合理工学府 A棟  
11 オープンイノベーション棟  
洋上風力研究教育センター  
半導体・デバイスエコシステム研究教育センター  
15 福利厚生施設(売店・食堂)  
16 共通管理棟  
建築地区事務部  
事務支援センター(検収センター)  
18 総合理工学府 C棟  
19 総合理工学府 D棟  
工学部附属高専連携教育推進センター  
20 総合理工学府 E棟  
グリーンテクノロジー研究教育センター  
キャンパスアジア  
シンクロトロン光利用研究センター  
放送大学 福岡学習センター  
24 総合理工学府 F棟  
情報基盤研究開発センター附属汎オミクス計測・  
計算科学センター  
22 総合理工学府 G棟  
23 総合理工学府 H棟  
25 総合理工学府 I棟  
27 クエスト実験棟  
高温プラズマ理工学研究センター  
28 中央分析センター  
30 総合研究棟(C-CUBE)  
建築図書館  
建築ホール  
31 応用力学研究所  
再生可能流体エネルギー研究センター  
大気海洋環境研究センター  
極限プラズマ研究連携センター  
海洋プラスチック研究センター  
32 建築国際交流会館

↑ 食堂等  
P 駐車場  
売 売店  
WC バリアフリートイレ  
IN 車両入口  
OUT 車両出口  
♥ AED

〒816-8580 福岡県春日市春日公園6-1

アクセス

アクセス方法

- 空路  
福岡空港→(地下鉄空港線)→「JR博多駅」→(鹿児島本線)→「JR大野城駅」
- JR  
「JR博多駅」→(鹿児島本線)→「JR大野城駅」
- 西鉄  
「西鉄福岡駅」→(西鉄天神大牟田線)→「西鉄白木原駅」
- 高速バス  
天神バスセンター下車→(西鉄天神大牟田線)→「西鉄白木原駅」